

## 論文内容要旨

### 論文題名 Usefulness of Intracardiac Local Ventricular Electrogram to Predict the Responder in Patients with Cardiac Resynchronization Therapy

(心臓再同期療法における、レスポonderの予測としての局所心室電位の有用性)

掲載雑誌名 THE SHOWA UNIVERSITY JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES

専攻名 内科系内科学 (循環器内科学分野)

氏名 大沼 善正

#### 内容要旨

序文：心臓再同期療法 (CRT) は進行した心不全に対しての有効性が確立されている。しかし、約 30% で効果が得られない例がある。この研究では心内の局所心室電位が心臓再同期療法のレスポonderの指標となり得るかを検討した。

方法：66 例の心不全患者に対して心臓再同期療法を実施。レスポonderの定義として左室収縮末期容積 15% 以上の縮小、左室駆出率 20% 以上の上昇とした。QRS-LV 間隔は体表面 QRS の始まりから、左室リードで記録された電位までの距離とした。QRS-LV 間隔とレスポonder、心不全入院、死亡率に関して検討した。

結果：平均年齢  $67 \pm 12$  歳。平均左室駆出率  $26.3 \pm 8.3\%$ 。平均観察期間  $27.2\% \pm 19.9$  カ月の間で、心不全入院 27 例 (40.1%)、死亡 17 例 (25.7%) であった。平均 QRS-LV は  $103 \pm 33\text{msec}$  であり、wide QRS-LV ( $>103\text{msec}$ ) と narrow QRS-LV ( $<103\text{msec}$ ) の 2 群に分けたところ、wide QRS-LV 群では narrow QRS-LV 群と比較し死亡率は低値であった (77 % vs 53 %,  $P < 0.05$ )。拡張型心筋症患者においては、QRS-LV はレスポonder群では非レスポonder群と比較し QRS-LV 間隔が有意に延長していた ( $112 \pm 9.2\text{ms}$  vs.  $80.0 \pm 10 \text{ msec}$ ,  $p < 0.05$ )。QRS-LV 間隔はレスポonder、心不全入院とは関連しなかった。

結語：死亡率は wide QRS-LV 間隔が広いほうが低い。拡張型心筋症患者においては、QRS-LV 間隔が広いことが心臓再同期療法のレスポonderの予測因子になり得るかもしれない。